

英語科学習指導案

指導者 森脇 哲久

1 日時 平成31年2月5日(火) 第6校時(14:20~15:10)

2 学年・組 仁方中学校第2学年2組 計24名(男子10名, 女子14名)

3 場所 第2学年2組教室

4 単元名 Lesson 7 Presentation

5 育成を目指す資質・能力

主体性, 思考力・表現力

6 単元について

○ 本単元では、健のクラスでプレゼンテーション課題が出され、メイリンが世界一小さな手紙について健と話したり、プレゼンテーションの材料として手紙を選び、プレゼンテーションのアンケートを取ったり、インターネットを使って情報を調べたりし、それらをまとめ発表する場面が取り上げられている。メイリンが調査し、その結果をもとにプレゼンテーションの原稿を作成するまでの場面で構成されており、プレゼンテーションをするための表現を学ぶことができる。

言語材料としては形容詞の比較級・最上級、副詞の比較級・最上級、同等比較が扱われており、調べたことを根拠にして、表やグラフを使いながら情報や思いを相手に伝えることができる単元である。また、教科書を通してあるテーマについて調査し、調べたことについて発表原稿を作成し、聞き手に伝える「発表」の場面設定がしやすい単元である。

また、「仁方中学校 CAN-DO リスト」の「話すこと(発表): 調べたことについて発表資料を英語で作成し、その資料を見せながら、聞き手に正しく伝わるように発表する。」よう指導し、言語活動を仕組むことで、調べたことについてプレゼンテーションをする力を養う。

本単元は、新中学校学習指導要領の1目標(4)話すこと[発表]イ「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。」ようにする指導と位置づける。

7 生徒について

○ 平成30年度広島県「基礎・基本」定着状況調査の生徒質問紙において、「英語の勉強は好きです。」の質問では、肯定的に答えた生徒が84.1%と高い。しかし、「英語の授業では、自分の考えや気持ち、事実などを英語で話しています。」の質問では、肯定的に答えた生徒が54.5%と低かった。

実際の授業では、帯活動で行うペア活動、単語の読み練習や音読、教科書の本文暗唱は意欲的に取り組んでいるが、自分の考えや意見を話すことには自信を持たずに消極的になってしまう。また、これまで行ってきた「話すこと」の言語活動でも、あらかじめ用意した英文をスピーチ形式で相手に伝えることならできるが、英語でやりとりする活動では、自分の考えや意見を正確に伝えている生徒は30%以下であった。

これは、これまで基礎的・基本的な知識の定着に重点を置いた指導を行ってきたことが原因と考えられる。英語の学習は好きで、授業に意欲的に参加できる長所を生かし、自分の「話したい」ことが

「話せる」授業にする必要がある。

8 指導について

○ 指導にあたっては、単元を通して必然性と自己関連性の高い言語活動を設定する。また、それに向けて、毎時間の授業の中に、生徒が自分の考えや意見を述べるような活動を仕組む。

単元のはじめに、1年間大阪に住んでいたことがあるALTが、「春休みに友人と関西に遊びに行くので、自分がまだ知らないことや場所について教えて欲しい。」と言う必然性のある場面を設定し、単元の終わりに行う言語活動として、「修学旅行で訪れた京都・大阪のおすすめについてプレゼンテーションする。」という活動を行う。

生徒が主体的に活動し、この課題をクリアするためのスキル獲得に向け、帯学習でペア活動の時間を取り、ミニチャット形式の会話練習を行う。身近な話題から英語で話させることに慣れさせる。メモを元に自分の意見や考えを述べるなど表現を意識させて教科書を読み取らせていき、プレゼンテーションする際に用いられる表現の幅を広げていく。また、自分の考えや思いを話せるように、ペアでの会話練習で、決まった文にプラス1文させる。その際、正確さにこだわりすぎず、自分の考えや意見を自主的に発言できるように取り組ませたい。なお、正確さについての指導は、話したことをワークシートに記入させて確認する。新学習指導要領への移行に伴い、小学校における外国語活動や英語科において学んだことが生かせる授業の展開にし、「話すこと」のスキルを言語活動を通して身に付けさせる。

さらに、国語科でも2月末に同様のテーマで1年生を対象にプレゼンテーションを行う。総合的な学習の時間・特別活動・国語科の授業を通して、しっかりと考えて自分の考えを持たせることで、表現したい内容を具体化させる。教科横断的な指導を行うことで、本中学校区の育成すべき資質・能力である「思考力・表現力」の育成を図る。

また、評価については、後日別課題でパフォーマンステストを行う。その際、あらかじめ用意された資料やデータを元にプレゼンテーションをすることができているかを評価する。

9 単元の目標と評価基準

- (1) 間違ふことを恐れず、学んだ表現や表現技法を積極的に使ってプレゼンテーションする。
- (2) 修学旅行で訪れた京都・大阪のおすすめについてプレゼンテーションする。
- (3) 比較級・最上級、同等比較の文構造・意味・用法を理解する。

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 間違ふことを恐れず、学んだ表現や表現技法を積極的に使ってプレゼンテーションしようとしている。	① 修学旅行で訪れた京都・大阪のおすすめについてプレゼンテーションすることができる。		① 形容詞の比較級・最上級の文構造・意味・用法を理解している。 ② 副詞の比較級・最上級の文構造・意味・用法を理解している。 ③ 同等比較の文構造・意味・用法を理解している。

10 指導計画（全15時間 本時第14時）

次	学習内容	評価規準	評価方法
1	○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。 ・言語活動の場面や目的について知る。 ・課題解決に向けて、本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。		
2 (2)	○Get Part 1 ・形容詞の比較級・最上級の文構造を理解する。 ・本文を通して、形容詞の比較級・最上級を含む英文の理解を深める。	エの①	ペーパーテスト
3 (2)	○Get Part 2 ・形容詞の比較級・最上級の文構造を理解する。 ・本文を通して、アンケートの取り方を知る。 ・比較級・最上級を使ってアンケート結果について発表する。	エの②	ペーパーテスト
4 (2)	○Get Part 3 ・同等比較・副詞の比較級・最上級の文構造を理解する。 ・本文を通して、同等比較・副詞の比較級・最上級を含む英文の理解を深める。	エの③	ペーパーテスト
5 (4)	○Use Read ・教科書本文を読み、内容を理解する。 ・教科書本文を通して、プレゼンテーションの仕方を知る。 ・プレゼンテーションをする際の、グラフや図の使い方を知る。	エの①②③	ペーパーテスト
6 (4) 本時 (2/4)	○Use Speak ・与えられたテーマについてプレゼンテーションする。 ・グループでプレゼンテーションする内容を考える。 ・プレゼンテーションの練習をする。 ・ALTにプレゼンテーションする。	アの① イの①	活動の観察 ワークシート パフォーマンス テスト
後日	<パフォーマンステスト> ・別課題でプレゼンテーションをする。	イの①	パフォーマンス テスト
	<ペーパーテスト> ・文の構造について理解を見取る問題。	エの①②③	ペーパーテスト

11 本時の目標

間違えることを恐れず、学んだ表現や表現技法を積極的に使ってプレゼンテーションする。

12 本時の展開

・習得の工夫【習得】，家庭学習とのつながり【家庭】，主体的な学び【主体】，思考力・表現力【思・表】

学 習 活 動	指導上の留意点 (◇) (◆「努力を要する状況」と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準 (評価方法) 【資質・能力】
1 あいさつ 2 ウォーム・アップ (1) 1分間 chat (2) 暗唱 3 本時の目標とゴールの確認	◇テンポ良く行う。 ◇タイムを設定して，集中させる。 ◇パフォーマンス課題を振り返り，プレゼンテーションをするうえで大切なこと(声の大きさ，アイコンタクト，ジェスチャーなど)を確認する。	
単元の目標：ジャネット先生に，修学旅行で訪れた京都・大阪のおすすめについてプレゼンテーションすることができる。		
本時の目標： 学んだ表現や表現技法を使って，プレゼンテーションする。		
4 マッチングゲームを行い，プレゼンテーションの作成をする。 (1) グループごとに事前に取ったアンケート結果とその結果をグラフしたものを与える。 (2) 4カ所の壁に貼ってある英文の中から，自分たちのグループのテーマに適する英文を選ぶ。 (3) プラスワンセンテンスして，選んだ英文をもとに原稿を考える。 (4) プレゼンテーションをする際に，分かりやすく表現の工夫するポイントを考える。 (5) 完成したものを自分のワークシートに記入する。	◇本時のゴールを再確認し，活動に移らせる。【習得】 ◆4カ所の英文を難易度別にし，支援が必要な生徒は，あらかじめ比較的容易な英文を選ぶ担当にするように促す。 ◇これまでに学習した表現を教科書やワークシートを引用し，プレゼンテーションの内容を発表の際に工夫する点を考えさせる。 ◇特に伝えたい部分には□，ジェスチャーを入れるところには☆，間をとるところには/を記入させる。 ◆活動の遅れているグループは，モデル文を参考にして，自分たちなりの表現ができるように，指導する。 ◆辞書を使うように促す。 生徒のまとめ例： Hello, everyone. We're going to talk about our school trip. Look at this graph. ☆ / It shows the most popular place in Kyoto. What's the most popular? ☆ Fushimiinari shrine is. ☆ Kiyomizu temple is in second place. ☆ To-ji is the least popular of the four. / +1 (We think Fushimiinari shrine has a lot of torii. / ☆ They were very beautiful.) / That's all. Thank you.	【主体】

<p>5 グループのメンバーを変えて発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現方法を工夫して相手に伝える。 ・発表を聞いて、内容について質問する。 	<p>◇新しいグループは、意図的に学力バランスを考えて、指導者が決定しておく。</p> <p>◇グループ内で発表させる。その際、相づち表現やリアクションを意識するように指導する。</p> <p>◇正確さにこだわりすぎず、生徒の自主的な発話を促す。</p> <p>◇評価してもらったことをグループで出し合い、改善させる。</p>	<p>アの① 活動の観察</p> <p>イの① 後日パフォーマンステスト 【思・表】</p>
<p>6 最初のグループに戻り、自分のプレゼンテーションの原稿を考える。</p>	<p>◇本時で使ったプレゼンテーションの原稿を参考にして考えさせる。</p> <p>◇主体的に家庭学習を行うための手立て。【家庭】</p>	
<p>7 自己評価（ワークシート）の記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どんな工夫して発表したことで相手に伝わったのか。」「どんな工夫をして発表したことで理解できたか。」について振り返る。 	<p>◇本時の授業を振り返り、目標が達成できたかどうか評価する。</p> <p>◇肯定的な評価及び改善点を伝える。</p>	

1.2 板書計画

<p>本時の目標：学んだ表現や表現技法を使ってプレゼンテーションする。</p>		<p>本時の流れ：</p>
<p>Friday February fifth sunny</p>	<p>マッチングゲーム</p> <p>①テーマを選ぶ</p> <p>②4カ所の壁に貼ってある英文の中から、テーマに適する英文を1人1文覚えてくる。</p> <p>③わかりやすい順に並べ替える。</p> <p>④わかりやすく表現するポイントを考える。</p>	
<p>プレゼンテーション</p> <p>Opening</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ ・発表内容について <p>Body</p>		
<p>表現の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・強調する <input type="checkbox"/> ・ジェスチャー☆ 		

1.3 評価問題 ※活用力を問う内容であること

パフォーマンス課題：クラスで人気のあるものについてプレゼンテーションする。

1.4 単元で育成を目指す資質・能力に係る生徒の変容について

・資質・能力に係る単元前の生徒の実態

ペア学習や、単語の読み練習や音読、教科書の本文暗唱に意欲的に取り組めるが、自分の考えや意見を話す（思考力・表現力）ことは消極的（主体性）であった。

・単元の具体的な手立て

そこで、1年間大阪に住んでいたことがあるALTへ「修学旅行で訪れた京都・大阪のおすすめスポット」をプレゼンテーションするという単元末のねらいを設定した。さらに、国語科でも同様のテーマで1年生を対象にプレゼンテーションを行い、英語科、国語科、総合的な学習の時間、特別活動等の教科

横断的な指導を行った。

- ・発言，ノート，ワークシート等の記述から見える生徒の変容

その結果，全員がワークシートに自分の考えや意見を記述することができ，さらによりよい表現をするための工夫を記述する（思考力・表現力）など，積極的に取り組むことができ（主体性），単元で目指した資質・能力を高めることができた。